会報 青森県在宅保健師の会

令和８年８月発行・第51号

令和８年度青森県在宅保健師の会総会並びに研修会

去る６月11日、青森市「東奥日報新町ビル」において、令和８年度青森県在宅保健師の会総会並びに研修会を開催し38名の会員が出席しました。

総会では、新井山洋子会長の挨拶のあと、来賓の青森県がん・生活習慣病対策課課長の山田淑子様から「青森県の出生数は昭和55年の２万１千人から、とうとう５千人を下回り、出生数の減少スピードが加速している中で、幼少期から健康づくりへの意識を育む取組が求められてきている。また、本県の課題でもあるがんや脳血管疾患等における死亡率に関し、昨年から高血圧の治療に焦点を当て、県を挙げて様々な健康施策に取り組んでいるところである。会員の皆様には、今後も引き続き県民の健康増進のためご協力いただきたい」との祝辞をいただきました。

続いて、青森県国民健康保険団体連合会常務理事の舛甚悟様（代読：事務局長　長内るみ様）からは「青森県在宅保健師の会の皆様には、地域住民の健康の保持・増進に寄与され、また国保連合会が実施する健康づくり事業への多大なご協力に感謝申し上げる。全国的に会員の高齢化などにより会の組織運営が厳しくなっている状況もある中、本会としては貴会の活動を全面的に支援していくので、引き続き協力をお願いしたい」と祝辞をいただきました。

議事では工藤美子会員（野辺地町）を議長に選任して議案審議に入り、提出された令和７年度事業報告・決算、令和８年度事業計画・予算については、全て原案どおり承認されました。

また、役員の改選が行われ、最後に新旧役員から挨拶をいただき閉会しました。

令和８年度事業計画

（具体的事項）

１．総　会（６月11日）
２．役員会（４月、７月、10月、３月）
３．在宅保健師等会連絡会議
　(1)　東北地方在宅保健師等会連絡会議
　　（12月４日）
　(2)　都道府県在宅保健師等会全国連絡会
　　（未定）
４．各種研修会等の開催及び案内
　(1)　総会時研修（６月11日）
　(2)　在宅・現職保健師保健所ブロック別交流会・研修会（共催）（10月～11月）
　(3)　関係機関（県・国保連合会等）研修（共催）
５．地域の保健・福祉活動支援事業　５団体
６．広報活動
　(1)　会報の発行　年３回（８月、12月、３月）
　(2)　ホームページの更新
７．県・市町村・国保連合会等からの要請事業等への支援・協力
　(1)　保健師の人材育成への支援
　(2)　小規模保険者支援事業
　(3)　青森県保健協力員会等連絡協議会
　(4)　各種委員の委嘱、各種事業等
　(5)　その他

研修報告

「令和8年度青森県在宅保健師の会総会並びに研修会」報告

山田 真智子 会員（七戸町）

青森市から七戸町に転居して初めて総会に出席できました。他県出身で非常勤職員として勤めていた私にとって在宅保健師の会はずっと拠り所です。

新井山会長のご挨拶で、４名の新規会員入会と嬉しいお知らせ。県がん・生活習慣病対策課の山田課長からは、人口動態統計の出生数等の話を改めて聞き、寒々しく感じました。国保連合会の長内事務局長からは、「市町村のマンパワー不足に在宅保健師の会の協力が大切！」と。議事は、つつがなく承認されました。長らく役員を務めてくださった皆様に感謝すると共に、新任の役員の皆様にはよろしくお願いしたいと思います。

研修会では「つなぐ保健師の想い～保健師養成の歴史から～」と題して、会員でもある青森中央学院大学看護学部講師の菊池美智子さんが、時間をかけて調べ、研究した資料を基に熱く語って下さいました。他県の看護養成校出身の私は初めて知ることが多く、特に弘前女子厚生専門学校のカリキュラムは全国に先駆けた保健婦教育だったことが印象的でした。

参加者の声

１．総会についてはいかがでしたか。

- 進行がスムーズで良かったです。(15)
- 会の状況を知ることができました。
- 役員改選も無事にすみ安心した。
- 青森県の在宅保健師の活動が素晴らしいということを会員に話した会長は良かったと思います。
- 会長の挨拶はとても励まされたように楽しい雰囲気づくりになった感がありました。ありがとうございます。
- 楽しかった。久しぶりの人と会う機会になり、リフレッシュできた。

２．「つなぐ保健師の想い～保健師養成の歴史から～」についてはいかがでしたか。

- とても勉強になりました。自分の歴史も振り返ってみたいと思います。（2）
- 弘前女子厚生専門学校の存在など今まで知らない歴史がわかってとても勉強になりました。（2）
- 花田ミキさんの映画を見たとき歴史に触れましたが、今また改めてお聴きすることで、自分は歴史ある職業に就けたという思いになることができました。
- 分かりやすい内容で良かった。保健師教育における青森県内での取組を新たに見直しました。
- よかったです。講師のたゆまない努力が伝わってよかった。PHNの歴史を改めて実感でき勉強になりました。
- 資料の作りがとても見やすく理解しやすく話を聞いていてよ～く理解できた。楽しく保健師の歴史を知ることができました。新人保健師教育に使いたい資料です。
- 資料収集からまとめるまで大変だったと思います。素晴らしかった。
- とてもよくまとめられていて素晴らしいの一言でした。今の保健師のなり手が少ないとか、すぐ辞めるとかは保健師としてやりがいが感じられない現実があるのでしょう。すごく感じさせられました。

３．交流会・情報交換会についてはいかがでしたか。

- 先輩方のお話をきけて楽しくとてもよかったです。（3）
- 色々な活動を知ることができ、素晴らしいと思いました。（2）
- お琴や調理師学校に挑戦した人やいろんな体験を聞くことができてとてもよかった。
- 皆が好きなことをやっていたり80歳を過ぎてもまだ現役の仕事をしている方もいて感心させられました。やはり好きな趣味を続けられる事がいきい

日本や青森県の看護や保健師の歴史を知り、先輩方が築いてくれたおかげで、今保健師として活動できていることに感謝できました。時代に即した保健師活動に試行錯誤しながら、置かれた立場での活動は多種多様である。ですから、新たな視点や方法を取り入れつつ、保健師でいられることに喜びを持ち、過ごしていけたらと感じました。

交流会は７グループに分かれ、テーマはあれど思い思いにしゃべりました。私が参加したＤグループでは「終活は元気なうちに！」と「ラージボール卓球を始めてとても楽しく、おすすめして仲間が増えているこ

とも嬉しい！」の２点が興味深かったです。自分のグループに集中していて周りを見ることも無く終わってしまいましたが、皆さんきっと笑いあり、気づきありの楽しい時間だったことと思います。

役員の皆様、事務局の皆様、そして国保連の皆様のおかげで「参加して良かった！」と思える総会と研修会でした。ありがとうございました。

最後になりますが、以前大変お世話になった方々が忘れずにいて下さり、お声がけ頂き大変嬉しゅうございました。またお目にかかれるように元気でいたいと思います。

（アンケートから：回答数35）

きしている証拠だと思います。

- 他の人との交流が持ててとてもよかった。色々な趣味を持っている人のお話が聞けてよかった。
- 皆の趣味や日常活動の話を聞いて感動しました。参考になるお話ばかりでとてもタメになった。とても楽しく笑った時間でした。ありがとうございました。

４．総会・研修会全体を通しての感想をお寄せください。

- １年に１度ですが、懐かしい会員の皆様に会えて楽しかった。来年も皆さんに会いに来たいです。（２）
- 全体的に良かった。参加して元気をもらいました。健康に気を付けて毎年参加したいです。
- 毎年参加していますが、元気をもらえて感謝しています。
- 参加者の笑いが絶えない楽しい総会であった。来年もまた皆さんと会えることを期待したい。
- 元気な会員と会えて笑顔の時間となりました。また参加したいと思います。
- この会に参加させていただき、先輩の皆さんの姿を見ていつも元気をもらっています。ありがとうございます。
- 例年、会運営について国保連事務局・役員の皆様ありがとうございます。いつも楽しい雰囲気での開催、感謝申し上げます。

５．会の活動に対する意見要望等、その他皆様からの一言をご記入ください。

- 今後もよろしくお願いします。（３）
- ますます盛会になるようにしたい。
- 来年の総会も楽しみに１日１日を過ごして参ります。ありがとうございました。
- 会があることを大事にしたい。国保連のバックアップをよろしくお願いします。
- 直接活動することが少ないので、心苦しい思いもありますが、退会せずにいたいと思います。
- 毎回会報を見るのが楽しみです。
- この会の活動が継続されるよう、皆で支えていかなくちゃと思いました。
- 新しい会員が増えてほしい。
- 継続してこの会をしていただきたいと思います。よろしくお願いします。
- 会の運営大変だと思いますが、継続していただければと思います。
- 年に一回、作品を出すのでそれを励みに作品作りに精を出しています。生きがいを与えてくれてありがとうございます。

新役員から一言

今回の役員改選で北山つね子副会長、今和子幹事、三和千枝子監事、越後秀監事が退任され、新役員として澤田典子幹事、野宮富子幹事、加賀谷久子幹事、瀬川節子幹事を迎え新体制となりました。役員の皆さんよりメッセージをいただきましたので、ご紹介します。

新井山　洋子　会長（五戸町）

会長として、再々々々任され責任の重さを痛感いたしております。

青森県在宅保健師の会の益々の発展のため、役員と一丸となり精進して参りますので、会員、関係者の皆様のご協力宜しくお願いいたします。

澤谷　悦子　副会長（青森市）

この度、副会長となりやや緊張しております。役員11名のうち４名が退任となり寂しいですが、新たに若々しい方々が役員に就任されたので、会員の皆様や連合会の御協力・御支援を得ながら、チームワーク良く楽しく会をすすめていきたいと思います。

中居　裕子　副会長（八戸市）

会員の皆様こんにちは。物忘れが多くなり、あまりお役に立てないかもしれませんが、頼りになる澤谷副会長と一緒に会長を支え、少しでも会を盛り上げていきたいと思います。よろしくお願いします。

奥瀬　郁子　幹事（青森市）

平成30年４月に幹事に任命されてからはや８年が経ったということに、自分自身が驚いています。他の役員の皆さんは私より数倍パワフルで地区の支援にも積極的に仕掛けて活動しています。役員会では意見が活発に交わされていて素晴らしいといつも感心させられています。

澤田　典子　幹事（弘前市）

定年退職後５年間の再任用期間を経て、今年度より在宅保健師の会に入会いたしました。先日の総会では、現役時代とお変わりないハツラツとした先輩皆様のパワーに驚き、これも会の繋がりがあってのことと痛感したところです。

そして、この度先輩の今さんからバトンを引き継ぎ、役員をお引き受けすることとなりました。微力ではありますが、会のためにお役に立てるよう頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

役員お疲れさまでした！

役員改選で退任された４名の会員からメッセージをいただきましたので、ご紹介します。

北山　つね子　会員（東北町）

大先輩の古澤さんからバトンタッチされてから早いもので14年間という長期間に及んでいました。

「私は、役員として役割を果たせているのでしょうか？」と時々不安になることがありましたが、役員会で皆さんと顔を合わせ意見交換し合ったことで、不安が和らぎました。役員会での時間は笑いあった楽しいものでした。（実は、乙供から青森へ出かけるのも楽しみのひとつになっていました。）

また、国保連の皆さんからは沢山の支援と新しい情報をいただき、とても新鮮で現職時代を想い社会の一員になれたような充実したひと時を過ごすことができました。国保連の皆さん、役員の皆さん、これまでたくさんのお力添え感謝・感謝です。これからも仲間として元気に頑張りたいと思います。本当に長い間ありがとうございました。

今　和子　会員（弘前市）

早いもので役員となり、10年経ちました。「あっ」という間のこの10年は、素晴らしい人達との出会い、笑顔、パワーと皆様から元気をいっぱいもらいました。本当にありがとうございました。

これからは、一会員として、健康に気をつけラージボールを楽しみながら、保健師魂を忘れずに会の活動に協力していきたいと思います。

野宮　冨子　幹事（五所川原市）

この度、「青森県在宅保健師の会　幹事」を拝命いたしました野宮です。

会員・国保連合会・役員の皆様のお力をお借りしながら、楽しむことを忘れず、笑顔で全うできればと思っています。よろしくお願いします。

加賀谷　久子　幹事（八戸市）

令和２年３月に県保健師を退職したものの、その頃巷ではコロナ禍へ突入。

ご縁があり、令和２年６月から八戸市保健所でお仕事をさせていただき、令和８年３月無事満期卒業となりました。今までは「仕事をしているので」と、やんわりお断りさせていただいていましたが、大先輩からのお誘いでこの度、役員を引き受けさせていただくことになりました。大変未熟ではありますが、先輩役員の方々の教えを受けながら、精一杯務めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

三和　千枝子　会員（五所川原市）

一生懸命にも笑い・笑いあり、アッという間の８年間でした。会員や役員の方々からたくさんの元気をもらったこと、国保連の支援があり事務局と一緒になって活動ができたこと、みんなに感謝です。

今後は、会員の減少やweb開催が多くなっている中で、一会員として会の存在を維持し役立つ活動ができるよう、参加する形で協力していきたいと思います。

越後　秀　会員（三戸町）

あっという間の12年間だったような気がします。思い起こせば、前任者から「三八の連絡員をやってくれないかな～」と声をかけられたのが平成26年、入会２年目のことだったと思います。役員会も楽しく、年数回の朝早い青い森鉄道もさして苦ではありませんでした。また、入会の時が在宅保健師の会設立15周年の年で一会員としての参加でしたが、その後20周年と25周年は役員としてお手伝いさせてもらったことが嬉しい限りです。

５期目辺りから「後任を…」とバトンタッチできる人を探しましたが、この度、私のバトンを引き継いでくれる人が見つかりましたので、やっと（嘘です）安心して退任できます。

我が県の在宅保健師の会は「事務局との連携もよく恵まれた環境の中で活動できていること」を、他県の方々と話して感じてきました。これからも一会員として会の活動に協力していきたいと思います。有難うございました。

瀬川　節子　幹事（七戸町）

在宅保健師の会には定年退職後すぐに入会しましたが、活動への参加はできないことが多かったです。ここ数年は、ブロック別研修会や総会に参加することができ、今更ですが在宅保健師のパワーや会の歴史の重みを感じています。会の活動を継続し、次世代に繋げていければと思っていますのでよろしくお願いします。

高坂　恵美子　幹事（むつ市）

下北地区代表の役員となって６期目になります。昨年までは同級生２人が役員だったので役員会で会えることが楽しみでした。列車を乗り継いでの出席は大変ですが、２年は頑張りたいと思います。

三上　扶貴子　監事（弘前市）

今回で役員としては、２期目となります。幹事から監事となりました。役員会で集まるのは年数回ですが、何かしらの学びが必ずあります。そのたび「人は人中で生きて育つものだ」と思います。

微力とは思いますが、よろしくお願いいたします。

井沼　登志子　監事（五所川原市）

「在宅保健師の会」に在籍して10年目になります。元職場の山谷紗千子先輩からお声がけをいただき、現在に至っています。今年６月に開催した「総会並びに研修会」では「趣味・終活」について今後に役立つ情報交換ができ楽しかったです。役員としては力不足ですが、皆様のご助言とご協力を頂きながら頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

令和8年度　青森県保健協力員会等連絡協議会総会並びに研修会

５月29日（金）にリンクモア平安閣市民ホール（青森市民ホール）で開催され、本会会員14名を含む496名が参加しました。今年度、青森県保健協力員会等連絡協議会は設立20周年を迎え、記念講演も行われました。参加された長瀬比佐子会員（十和田市）からの報告です。

(1)　総　会
　来賓挨拶：宮下知事、山本国保連理事長（田子町長）、
　　新井山会長
(2)　研修会
　①　活動発表
　「保健協力員活動の紹介」
　　座　長：国立大学法人弘前大学名誉教授・
　　健康未来イノベーションセンター顧問・
　　青森県総合健診センター理事長・
　　青森県医師会健やか力推進センター副センター長
　　中路 重之 氏
　「深浦町保健協力員活動の紹介」
　　活動発表者：深浦町保健協力員会
　　会長　佐藤 靖子 氏
　「保健協力員等に対する実態調査結果について」
　　説明者：青森県国民健康保険団体連合会
　　保健活動推進専門員　山口 久美子
　「QOL健診について」　中路 重之 氏
　②　記念講演「睡眠とさまざまな健康とのつながり」
　　講　師：国立大学法人弘前大学医学部附属病院
　　耳鼻咽喉科頭頸部外科講師
　　高畑 淳子 氏

令和８年度青森県保健協力員会等連絡協議会研修会に参加して

長瀬 比佐子 会員（十和田市）

深浦町の活動発表では、保健協力員の皆さんが住民へ訪問での健診受診勧奨をし、県内でも高い健診受診率になっていること、会の研修会では健康づくりに関する知識を深め、会員自らを高める機会としていることのほか、忘年会や２年に一回の県内視察など会員相互の交流の機会を大切にしていること等の紹介がありました。町の担当者からは、保健協力員活動によって健診受診率が高くなっていることなどについて「行政から住民へ保健協力員をPRをしていきたい」との発言がありました。座長の弘前大学名誉教授中路重之先生からは「町長や役場の人にも理解してもらうことで、保健協力員の活動がしやすくなる」との助言があり、保健協力員活動の周知をしていく必要性を改めて感じました。

青森県国民健康保険団体連合会の「保健協力員等に対する実態調査結果について」では、①保健協力員は研修会で学んだ知識を家族や友人に伝えたり、訪問し受診勧奨するなど、地域において健康づくりの担い手として重要な役割を果たしていた。②健康についての知識の習得や住民の反応、会員同士の協力などで、特に住民との関係性を築き、地域とのつながりを大事にしていた。③「自分の声がけで住民の健康行動に変化があった」ことを体験している人は少なく、活動の効果の見えづらさを感じている人が多かった等の説明がありました。

この調査結果は人口規模別等で分析された分も合わせて市町村に配付されるということで、今後の保健協力員活動に役立つのではないかと思われました。

中路先生からは「QOL健診について」の紹介がありました。QOL健診は健診結果がその場で分かる“本気になる”健診であるため、生活習慣のあり方を確認し、動機づけから行動変容につながるこのような健診が県内全体に広がっていって欲しいと感じました。

弘前大学医学部附属病院耳鼻咽喉科頭頸部外科講師の高畑淳子先生の「睡眠とさまざまな健康とのつながり」と題した記念講演ですが、私は睡眠とメンタルヘルスとの関係について知りたいと参加しました。分かりやすい表現で自身の知識の整理になり、保健協力員の皆さんにとっても理解しやすかったのではないかと感じました。なかでも小児の睡眠時間の短縮が心身の発達に懸念があるということであり、大人としてその環境を作ることの必要性を認識しました。また睡眠時無呼吸症候群については具体的に検査や治療などを知る機会になり、自分でできることとされた対策はとても役立つもので、今後に生かせるのではないかと思いました。

新入会員のご紹介

今年度入会された４名の会員をご紹介します。これからどうぞよろしくお願いします。

澤田 典子 会員（弘前市）
山田 啓子 会員（八戸市）
川村 桂子 会員（十和田市）
島谷 富美子 会員（つがる市）

令和８年度地域の保健・福祉活動支援事業活用団体

第２回役員会（７月７日（火）開催）で決定した今年度の地域の保健・福祉活動支援事業活用団体は以下の５団体です。

(1) 来てみん会	十和田市	代　表：長瀬　比佐子
(2) 白石分館ほのぼの交流会	七戸町	代　表：八嶋　昭子
(3) 金矢いきいきふれあいサロン	六戸町	代　表：坂本　りつ
(4) シニア倶楽部女子会「ひまわり」	五所川原市	代　表：井沼　登志子
(5) 自死遺族のつどい（分かちあいの会）	五所川原市	代　表：小山　真貴子

当事業は、地域で会員が独自に取り組んでいる保健・福祉活動を支援し、会員の自主的な活動の推進と地域貢献を図ることを目的としたもので、助成期間は原則５年間となっております。ボランティア活動等、地域の活動をされている方はぜひご活用ください!!

助成を希望される場合、ご不明な点がある場合は事務局までご連絡ください。

保健師活動の歴史を語る 3

昨年度の総会時研修で行った「保健師活動の歴史を語る会」のパート２として開始したコーナーです。
古川あき会員に続く第２弾として山崎トコ会員を掲載いたします。

山崎　トコ　会員（十和田市）

１　保健婦スタート

昭和34年、辞令には「十和田市吏員に採用する。保健婦を命ずる。国民健康保険課勤務とする。医療職（三）３等級７号9,600円を支給する」とある。全く知らない土地でスタートし、当時市役所にいた30代後半の国保保健婦２名から細やかな指導を受けた。しかし私は、目の前の事柄についていくのが精一杯であった。

主な業務は、市内に６か所ある国保直営診療所で医師の来る日に合わせた診療の準備と介助、診療所の掃除等であった。また、幻灯機を地区に持参して結核やトラコーマ等の「感染症予防」の衛生教育等も行った。この頃は、妊婦健診や施設分娩を勧めても“産むまで働く”“自宅分娩”が多く、乳児死亡は多かった。

２　県の開拓保健婦に・・

日々、忙しく先輩と一緒に活動をしながらも何か物足りなさを感じていたころ、生活改良普及員から「県開拓課で保健婦を募集している」という情報を得て応募。その後、開拓地区を担当し「保健指導員」という名称で活動した。

職場は県の開拓指導農場内にあり、開拓営農指導員７名と保健婦２名が配置されていた。担当地区の人口・世帯数は少ないものの十和田湖町、七戸町、下田町など広範囲にわたっていた。地区に出向くためにバスのほか、営農指導員とのペア活動によるオートバイでの送迎も利用したが、必要に迫られ自動二輪と自動車の免許を取得した。白いスカーフにサングラス、マスクに手袋といういで立ちでスクーターに乗って地区に出向くと、同僚や地区の子供達からは「月光仮面のお姉さん」と呼ばれた。

当時の開拓地は、入植にあたり国・県からの道路や簡易水道、狭いながらも住宅の確保、電気を引くための補助や入植一時金の融資等があるものの、その生活は厳しく保健指導を受け入れる余裕はなかった。自給自足を目指し、鶏・ウサギ・食用蛙等を飼育したり、冬は雀を捕ったりしていた。不足しがちな油脂を摂取するために、生活改良普及員や保健所栄養士の協力を得て「１日１回フライパン運動」を実施した。

また、広範な地域を一つにするために開拓婦人部の組織育成を開始し、この組織が中心となり、開拓婦人ホームを拠点とした季節保育所の開設（弘前厚生学院の実習先として定着）、農繁期共同炊飯のほか、へき地に分校を誘致することもできた。

さらに、新たに配備された自家発電のある「生活指導車」が１泊２日で地区に出向き、医師による診察、健康相談、映写会（時代劇が人気）、キッチンカーでの実習等があり、地区のお祭りとなった。

その後、社会全体が大きく変化し「もう戦後ではない」という考えから、国・県の開拓行政は一般農政に移行され開拓保健婦の制度は廃止となり、私も十和田保健所へ異動となった。

この10年間の保健活動の標語や合言葉は「カチャ９時運動」「シビ、ガッチャキ予防」「赤青黄食事、三色運動」等々、今に続く基礎になっているものもあるが時代の変化を思う。

～次号へつづく～

お知らせ

令和８年度在宅・現職保健師保健所ブロック別交流会並びに研修会開催

保健所管内毎に在宅保健師が集い、近況報告し合いながら親睦を深めるための交流会と「低栄養とフレイル」をテーマとした現職保健師との合同研修会を行いますので、皆様お誘い合わせの上ご参加ください。なお、詳細については、別途個別に通知いたします。

管　内	日　程	開　催　場　所
西　北　地　域	令和８年10月５日（月）	五所川原市民学習情報センター（五所川原市）
津　軽　地　域	令和８年10月８日（木）	弘前市民会館（弘前市）
東　青　地　域	令和８年10月９日（金）	ねぶたの家ワ・ラッセ（青森市）
上十三地域	令和８年10月19日（月）	市民交流プラザトワーレ（十和田市）
三　八　地　域	令和８年10月28日（水）	YSアリーナ八戸（八戸市）
下　北　地　域	令和８年11月５日（木）	下北文化会館（むつ市）

＜時　間＞　11：30～13：00　在宅保健師のみの交流
13：30～15：15　現職保健師と一緒に研修会
＜内　容＞　①講　　演「低栄養とフレイルについて」　講師：各地区外部講師（県栄養士会）
②発　　表「市町村での低栄養とフレイル予防に関する取組状況（仮）」
③質疑応答

役　員　会　報　告

去る７月７日（火）、国保連合会８階会議室において、令和８年度第２回役員会を行いました。

今回は、役員改選後の新体制で、６月11日に開催した「在宅保健師の会総会」の振り返りや10月に開催予定の「ブロック別交流会並びに研修会」について協議しました。

ニューフェイスから一言

今年4月に審査課から事業振興課に異動となり、在宅保健師の会を担当させていただくことになりました、保健事業係の澤田あづさです。

今年初めて参加した総会では、パワフルな会員の皆様からたくさんのパワーをいただいたと同時に、私も皆さんのようにいつまでも元気でパワフルに年を重ねていきたいなと思いました。私も皆さんにパワーを届けて、この会をもっと良いものにしていけるよう役員の皆様と一丸となり頑張って参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

先日、家族がスマートフォンのチャットGPTなるものと言い争いをしていました。家族は「地鎮祭のお祝いは何がいい？」と聞きたかったようですが、チャットGPTなるものは「地鎮祭」が「地震災害」としか聞こえないようで、トンチンカンな回答を繰り返していました。家族は何度も言い直していましたが、生粋の津軽人の訛りは通じないようで、結局人間が諦め、文字入力検索に切り替えていました。家族の様子を笑いながら見ていましたが「いくら賢いAIでも、津軽弁訛りはわがねべさぁ～！」と、しょうもない優越感？を感じてしまいました。数年前、弘前大学が津軽弁を標準語に変換する音声システム変換に取り組むために津軽弁のサンプルを募集していましたが…、実用化はしているのでしょうか？

青森県在宅保健師の会　＜事務局＞　青森県国民健康保険団体連合会　〒030-0801 青森市新町2丁目4-1　青森県共同ビル3階
TEL 017-718-4973 FAX 017-723-1095　E-mail jigyo@aomori.kokuhoren.jp
※許可なく、転載・複製を禁じます。